

令和2年12月14日から20日にかけての大雪に関する気象速報

12月14日から17日にかけて、上空約5500メートルには氷点下30度以下の強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となりました。18日は低気圧の通過により強い寒気の流入は一時的に弱まりましたが、19日から20日にかけて再び強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となりました。北陸地方と関東地方北部の山地では特に15日から16日に雪が強まり記録的な大雪となったほか、岐阜県や長野県でも大雪となりました。

この大雪により、除雪中の事故、積雪や路面凍結による転倒などによる人的被害や、高速道路の通行止めや車両の立ち往生、鉄道の運休・遅延、航空機や船舶の欠航などの交通障害が発生したほか、農業用ハウスの倒壊・損傷、野菜や果樹等の損傷・倒伏などの農作物被害、停電などライフラインへの影響がありました。

このときの気象状況をとりとめる目的で本資料を作成しました。
次のURLからご覧下さい。

https://www.data.jma.go.jp/tokyo/sub_index/bosai/disaster/20201214-20/20201214-20.html

目次は以下のとおりです。

- 1 気象の状況
- 2 警報等の発表状況
- 3 被害の状況

問合せ先：東京管区気象台 気象防災部 防災調査課 担当 岩澤
電話 042-497-7217 FAX 042-495-3180